

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成30年3月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

資格認定は始まりに過ぎない

阿南 誠

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療情報学科 准教授

今、この原稿を書いている瞬間、2月11日の診療情報管理士認定試験のために、全国で数千人という人達が合格を目指して猛勉強中であろうと推察します。私の大学でも、新たに受験する3年生に混じって、内定先から診療情報管理士の認定が条件や求職活動に必須等という理由で、まさに背水の陣の4年生がいます。同様に、通信教育受講生の中にも診療情報管理士の認定を条件とされている方、転職に必須という方もいるかもしれません。

私は、2年前に病院職員から大学教員に転身し、大学で就職担当も担うことになり、今では違う立場で、「資格」認定の重要性を実感しています。「あるとないとでは大違い」という言葉が病院への就職を希望する学生を前に、現実として目の前に突きつけられています。診療情報管理士認定という「原石」が一番価値を増すのは、求職者の持ち物になった時なのでしょう。

さて、その一方で、本教育委員会が実施した最新の診療情報管理士実務者へのアンケート調査によると、診療情報管理士が現実に担う業務は、益々多様性を増し、拡大の一途を辿っています。この全ての業務を少しでも学ぼうとすれば、通信教育はもちろん、4年間の大学教育でも全く追いつかない程の要求レベルとボリュームです。つまり、資格認定だけでは診療情報管理の世界で通用するのは難しくなっているということを表しています。

重要なポイントは、資格取得後に求められる、弛まぬ努力と継続した学習、さらに、どんな業務にも対応出来る柔軟性だと考えます。AIの進歩によって駆逐される職種になるのか新たな道を切り拓くのか、一重にこの要素にかかっているのではないのでしょうか。

先日、複数病院の採用担当の方から、同じ問い合わせをいただきました。内容は、DPCのわかる学生が欲しい、というものでした。DPCの広範な業務をご存じの方はわかると思いますが簡単な話ではありません。私の答えは、現状では不可能(経験のない実務者でも無理)、しかし、就職までに教え込みます、そして将来は大学がフォローする、というものでした。学校教育ではこのような対応が出来ますが、個人レベルでは、自らの努力、自己研鑽にかかっており、資格認定後も日本診療情報管理学会や日本診療情報管理士会等に所属して活発に生涯教育に取り組んで欲しいと強く願っています。

「原石」である資格認定を輝く「宝石」に変えるのは、これからのあなたの生き方にかかっています。

